旧交をあたためるの記

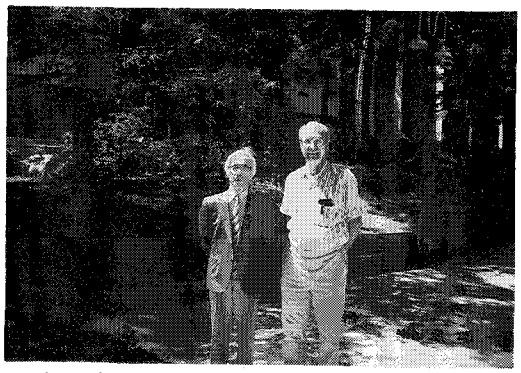
藤　田　良　雄

私が2年前「星とともに半世紀」というささやかな著作を出した時，ある1人の先輩の礼状に「藤田さんもとうとう後をふり返るようになりましたね」という皮肉とも思われるような添え書きがあった．その時私はそれを皮肉と感じながらも成る程我が心をみすかされ一本参ったと思ったのである．私が東京大学を停年退職した時，現役最後の教室談話会で自分の過去をふり返ってという今までの研究の足跡を話さないで，何事もなかったように現在やっている仕事或はこれからのめあてについて敢えて話しといういきさつがあるからである．

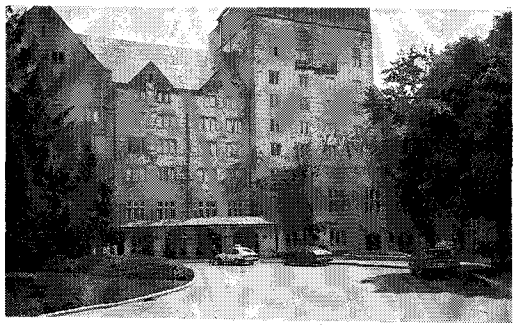
しかし私はほんとうに過去をふり返る年令に達したことを一方では情けない気持になると共に又一方では肯定せざるを得ないのである．今年暫くぶりに海外に出ることを決心した時，今度は旧交を暖める時が来たような気がした．1950 年始めに渡米して外国の天文学者と直接顔見知りになって以来もう 40 年近くになっている．戦前研究の上で手紙の交換をした人もいく人かあったが直接会って話す機会に恵まれたのはその時以来である．

IAU の総会に始めて出席したのは 1964 年の西ドイツ・ハンブルグでの第 12 回総会であった．今度のバルティモアの第 20 回総会に出席したのでハンブルグ以来第7回目の出席ということになった．その間に2回だけ出席しなかった．第 16 回のグルノーブル（1976 年）と第 19 回のニューデリー（1985 年）である．前置きが長くなってしまったが，今度の旅で旧交をあたためることができたいく人かの天文屋さんとそれにまつわるストーリーを述べさせていただきたい．

最初に出席した IAU コロキウム No. 106 の「特異赤色巨星の進化」（7 月 27 日から 29 日までアメリカ，インディアナ州，ブルーミントン〔インディアナ大学のキャンパスのある町〕で開かれた）では4年ぶりにキーナンに会った．キーナンは一見弱々しそうに見えて実にしんが強く，研究意欲も衰えることなく，地味ではあるが実績をあげている私の尊敬する学者の1人である．最初に会ったのは多分 1951 年ヤーキス天文台だったと思う．確かアメリカ・シカゴ地区の天文学者の集りがあった時である．それ以来同じ低温度星の研究にたずさわっている関係上，シンポジウムやパサデナのウイルソン・パロマー天文台のオフィス等で度々会って話をした．特に私が停年退職の折多くの方々の好意により英文のモノグラフ「低温度星のスペクトルの解釈と大気構造」を出した時，その原稿の全文を読んでもらうという大きな恩恵を受けた人である．低温度星の集りでもう1人私のなじみがある．バイデルマン，小がらだけれど，きびきびした感じは年をとっても変らない．1950 年のクリスマスの頃私はヤーキス天文台に着いて，私に与えられたオフィスにバイデルマンがいた．つまりバイデルマンと同室になったのである．ヤーキス以来何回も同じような研究の友と



サンタクルスのカリフォルニア大学のキャンパスにて



IAU コロキウムの会場となったインディアナ大学のインディアナ・メモリアルユニオン

して会っている．今度のコロキウムにも相変らず夫妻で来ていたが，ミセスがこんなことを云った．「ヤーキスであなたを家に招待した時つくった料理は今でも私としては最上のできだったことを覚えています．」私の記憶にそのような思い出がなかったことを私は心の中で悔いた．

さてバルティモアの第20回総会に出て感じたことは，20 数年の間に顔ぶれがすっかり変ったことである．当然のこととはいえ，寂しさはおおうべくもない．私の知人も少なくなってきた．それだけに旧知に会えた喜びは又格別である．M. シュバルッシルドは第 15 回のシドニー以来，又ミュラー夫人とは久し振りだった．7 月 31 日私が宿泊していた「オムニ・インターナショナル・ホテル」にシェーン夫妻が見えた．その昔リック天文台長だった D. シェーンの長男夫妻である．ホテルの食堂で御馳走になった．D. シェーンは私のスポンサーだった．炭素星の分類の論文を発表した彼は私の研究に興味を持ちアメリカに呼んでくれた．その時以来シェーン家と親しくなり，私は渡米する度に，カリフォルニアのサンタ・クルスにある住居を訪ねてお世話になった．長男は天文学者ではないが，海軍に入り横須賀に航空母艦の乗組員として来日し，横須賀のレストランで御馳走になったことがある．それ以来の再会．しかも夫人とは今回が始めてであった．ホテルで食事をしながら故老夫妻の思い出

を語り合って話がつきなかった．海軍をやめてから学校の管理職のような仕事をやりそれも停年になって悠々自適の様子であった．

8月7日，チェヴィ・チエーズというワシントンの郊外の町に住んでいたナンシー・ローマンの招待を受けた．私が1951年ヤーキス天文台に滞在中，シカゴ大学の若い講師として天文台に常勤となっていた彼女は，当時大学院学生として同じく天文台で勉強していたD．オスターブロックやN．リンバー（故人）その他数名と共に，研究の合い間に映画に行ったり，ピクニックに行ったりして楽しんだものである．ヤーキスに10年位勤めた後，彼女はNASAに転じ，そのボスとして20余年その名を高くした．停年退職してからはコンピュータ関係の仕事や研究のゼミなどで結構忙しく毎日を送っていると云う．招かれた昼，彼女のアパートを私は詳しく書かれた地図のおかげで余り苦労することなく探しあてたのであった．アパートといっても我々日本人の感覚とは程遠い高級住宅である．母と子1人の彼女は身体が若干不自由な老母と共に暮している．私の外にやはりヤーキス時代の友人夫妻が招かれていた．IAU総会に出て来た人である．私にヤーキスで会っていて向うは私の名前を勿論よく知っているらしい．私は名前をサインしてもらうまでついに思い出せなかった．名前を見てそれまでの不覚を恥じた．イングリッド・グレーネヴェルト！　私が当時招かれたのは，私の目的は勿論低温度星の分光学にあったが，給料をいただく義務として，カイパーの小惑星サーベイのお手伝いがあった．そのため午前中はその方の仕事に専念することにしていた．その時あらわれたのがイングリッドだった．若いドイツの天文学者の卵としてヤーキスに来た彼女を私ははつらつとしたドイツ人らしい女性としてみていた．彼女はその後オランダから同じ小惑星の研究のためヤーキスに来たファン・フウテンと結ばれたのである．私は話しているうちに，今は老婦人といった方が適切な彼女の昔の俤をありありと思い浮べることができた．ナンシーが腕をふるってつくってくれた手料理に，ここ40年にもなんなんとする交りの味わいが含まれているような気がしてならなかった．

8月7日ワシントンのホテルに着いて間もなく，ブランディワイン街という奇妙な名のついたワシントンの町に住むシャーロッテ・ムーア・シッタリーに電話をかけた．実は「IAUトゥディ」という総会開催中発行されている新聞に彼女が昔出席した総会の思い出話が出て居り，彼女が来月満90歳を迎えることを知ったので，健康状態が気になりどうかと思いながら電話をしたのであった．聞きなれたしっかりした声で，呼んでくれて嬉しい．会っておひるを一緒にしたい．何時都合がよいかとのことで，私は月曜は都合がつく旨話すと，それでは8日午後1時にホテルに行くからとのことであった．当日私は1時を待ったが，音沙汰なく1時45分になったので心配になり，電話をしたら姪御さんが出られ，彼女は正午自宅を出てバスに乗ったからもうとっくにそちらに着いている筈だとのことであった．私は益々不安になり，急きょロビーに行ってみたら，今着いたばかりであろうか，彼女の横顔が見えた．私にとって最高に嬉しかった瞬間である．終戦直後日米の交りが再開された時シャーロッテは早速あの有名なムーアの「多重線の表」を送ってくれたのである．それ以来深い交わりをして今日まで40数年間が経過したのであった．一緒に食事をしながら，彼女は未だ2つの目的のため頑張りたいと話してくれた．1つは太陽の紫外領域のスペクトルの同定表，もう1つはOⅡの完全な同定表をつくることである．今の身には，このような問題を気にしてくれる若い人が身のまわりにいないと一寸寂しそうであったが，いくらか耳の不自由に見える彼女の言葉には力強い響きがあった．今度会えたことは私にとっても大きな刺激であった．

その昔，リック天文台で3ヶ月の間山上生活をした時，三度三度のおいしい食事をつくってくれた姉妹，その妹の方のミラーおばさんとその一家とはもう40年近いつき合いになる．今度は是非寄ってほしいと云われ，コロラド州のデンバー市に近いラブランドという，名前だけでも恋人ができそうなロッキー山系の静かな町で3日間を過してから，私はカリフォルニアのサン・ノゼに着いた．旧友の一人オスターブロックが迎えに来てくれて，リック天文台のオフィスのあるカリフォルニア大学のキャンパスのあるサンタクルスに着いた．途中この辺から入ると元のシェーンの屋敷があると云われて回想をめぐらす．サンタクルスは懐しい土地である．シェーン夫妻の暖いもてなしに何時も感激しながら何回ここを訪れたことだろう．リック天文台のオフィスではリック天文台100年記念の写真その他コレクションが展示中であった．金曜日（8月12日はその日にあたっていた）のおひるはサンドイッチを食べながらスタッフがゲストの話をきくことになっていると云うことで，私は約1時間“炭素星の写真赤外領域のスペクトル模様”という題で話をした．そしてその夜，ホイットフォード，折から観測のため伊太利から来ていた若い人と共にオスターブロックの招待を受けた．この集りにはヤーキス天文台で一緒に学生生活をし私も共に学び又遊んだH．M．ジョンソン（元ロッキード研究所）やビーズレイ（元ピッツバーク大学）も招かれていたが，都合悪く来れなかったのは残念だった．この5月からアメリカ天文学会会長を引き受けたオスターブロックは，この15日から彼の主宰するIAUシンポジウムNo．134“活動する銀河中心核”が始まり200人以上集まるという忙しい中に，私を暖かく迎えてくれた友情に深い感銘を受けた．私はリック天文台100年史を見事に描写した彼他2人の労作“空への眼”（副題“リック天文台最初の世紀”）をもらって旧友のいる土地を離れたのであった．今回の私の旅はこのようにして私の願望を満してくれつつある．この後誰に会えるだろうかと思いつつ筆をおくことにする．

文中敬称，敬語をすべて省略したことをお詫びいたします．